

令和3年度

# 事業報告書

社会福祉法人 善通寺市社会福祉協議会

## 目 次

I	事業報告概況	.....	1
II	各部門事業報告		
	1 法人運営部門		
	1-1 組織運営	.....	2
	1-2 財務運営	.....	3
	1-3 総合会館の管理運営	.....	5
	2 地域福祉事業部門		
	2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、 地区社協の活動強化	.....	6
	2-2 地域福祉活動支援事業の推進	.....	7
	3 ボランティア活動部門	.....	14
	4 相談支援事業部門	.....	15
	5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門	.....	21
	6 在宅福祉事業部門		
	6-1 ホームヘルプサービス	.....	23
	6-2 居宅介護支援事業	.....	24
	6-3 通所サービス事業	.....	24
	6-4 通所型一般介護予防事業	.....	24
	7 共同募金運動への協力	.....	25
	<b>【参考資料】</b>		
	別表1 善通寺市社会福祉協議会職員数の推移	.....	27
	別表2 令和3年度会員会費の状況	.....	28
	別表3 令和3年度地区社協活動状況	.....	29
	別表4 善通寺市地域支え合いセンターここ家利用状況等一覧表	.....	38

## 事業報告概況

令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域福祉活動は自粛や休止を余儀なくされる中、民生委員・児童委員をはじめ、ふれあい・いきいきサロンや地区社協関係者のご協力により、見守りや声かけなどの「つながり」を絶やさないための活動を推進した。

また、地域共生社会の実現に向け、住民主体の地域福祉活動の推進を目指して「第4次地区地域福祉活動計画」の策定及び推進の支援を行うとともに、コミュニティソーシャルワーカー業務を市から受託し、生活上の困りごとや地域活動上の課題があれば相談していただくよう広報啓発し、相談内容や地域生活課題を把握、可視化するため、相談対応の記録管理システムの構築に取り組んだ。

前年度に引き続き、コロナ禍において収入減となった世帯への特例貸付や生活困窮者の相談支援を関係機関との連携により行った。

令和3年度末に市総合会館指定管理業務の終了に伴う利用団体等の利用調整や令和4年度の市総合会館の改修工事に併せて実施する社会福祉センターの部分改修、管理運営について、市と協議し利用者に配慮しながら、円滑な対応に努めた。

### 1 法人運営関係

- (1) 地域福祉活動の重要な財源である社会福祉協議会会費及び共同募金運動については、コロナ禍においても自治会長、民生委員、地区社会福祉協議会役員等の協力により推進することが出来た。
- (2) 組織体制の強化では、係連携会議を行い、事業・情報の共有化や常日ごろから相談できる体制づくりを目指し、一定の成果を上げることが出来た。
- (3) コミュニティソーシャルワーカー業務を善通寺市から受託したことに伴い、相談連絡メモ等の入力作業の簡素化、可視化することを目的に独自のシステムを開発した。また、介護保険等システムの更新年度であったため、感染症対策やテレワークに対応したクラウドを活用したシステムに変更した。
- (4) 令和3年度末で本会の総合会館指定管理者が終了となり、令和4年度から総合会館の全面改修及び社会福祉センターの部分改修工事が実施されるにあたり、工事内容、工事期間中の対応等について市総務課と協議し、円滑な管理体制の整備を図った。

### 2 地域福祉関係

- (1) 善通寺市委託事業のコミュニティソーシャルワーカー業務について広報啓発し、地域課題の把握のため座談会などを実施し、寄せられた相談について関係機関と連携し対応した。また、相談内容や支援内容の把握、可視化のため記録管理システムを構築した。
- (2) 地区社協関係者等地域住民の主体による「第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の策定及び推進を支援した。
- (3) 見守り活動ネットワーク事業やふれあい・いきいきサロンについては、コロナ禍においても見守りや安否確認を継続していただき、高齢者等外出支援事業については、地区社協会長と相談しながら新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ事業を実施した。
- (4) 令和2年度実施の「ひきこもりに関する研修会」を踏まえ、「ひきこもりミニ勉強会」を実施し、ひきこもりの方や家族の方の支援について、関係者や家族等と情報交換を行い検討した。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業となった生活資金が必要な方の支援として、生活福祉資金貸付事業特例貸付と生活困窮者自立相談支援事業の連携により対応した。

### 3 在宅福祉関係

- (1) 訪問介護事業、障害福祉サービス事業のサービス提供時間の増及び通所サービス事業利用者の増、また訪問体制の効率化により介護保険事業等収支の改善を図った。
- (2) 月1回の業務改善会議において感染症及び虐待について職員間で情報共有を行い、防止対策の徹底に努めた。
- (3) 国の処遇改善支援金の活用による賃金改善に係る規程を改正し、介護職員の人材確保に努めた。

# 1 法人運営部門

## 1-1 組織運営

### 目標

経営組織の充実強化を図る。

- ① 経営組織のガバナンスの強化
- ② 事業運営の透明性の強化
- ③ 財務規律の強化

### 事業実績 善通寺市社会福祉協議会職員数の推移及び職員構成（別表1 27P）

- 1 理事会 5回
- 2 評議員会 3回（内、2回は決議の省略による開催）
- 3 監査 1回（会計業務指導1回）
- 4 評議員選任・解任委員会 1回
- 5 定例運営会議 12回
- 6 在宅業務改善会議 12回
- 7 在宅福祉係定例会 8回
- 8 「ニーズ対応型社協アクションプラン」（香川県社協、県内市町社協連絡協議会策定）の実施に基づく活動の推進と社協組織の機能強化

#### ① コミュニティソーシャルワーク（CSW）機能の強化

本年度からコミュニティソーシャルワーカー業務を善通寺市から受託したことに伴い、相談連絡メモ等の入力作業の簡素化、可視化することを目的に独自のシステムを開発した。

#### ② ICTを活用した事務事業の効率化

介護保険等システムの更新年度であったため、感染症対策やテレワークに対応したクラウドを活用したシステムに変更した。

#### ③ 地域において社協の存在意義を高めるため、職員が一体的に業務を推進できるような機構改革の検討、職員の意識改革を目指した人材養成研修の推進（強化発展計画（3か年））

ア 職員マネジメント研修の実施

年間4回実施。コロナ禍における組織運営、地域福祉事業の課題等について相談、研修を行った。

イ 事務事業の効率化

ICTを活用した事務事業の効率化を図るため、介護保険等システムをクラウドを活用したものに変更した。

### 9 災害時・感染症のBCP（事業継続計画）、職員初動参集マニュアルの検証

#### 災害時における感染症に対応したBCP及び災害時における初動参集マニュアルの検証

本来であれば、研修を実施するところであるが、コロナ禍によりBCP（事業継続計画）及び職員初動参集マニュアルを職員へ配布、周知するに留まった。

### 10 所有施設の運営管理

- ① 社会福祉センターの運営 利用者人数 9,754人（2年度8,734人）
- ② 介護予防、健康増進事業（社協eサロン）の運営 利用者人数 2,176人（2年度3,478人）

### 評価と課題

- 1 定款その他の規程に従い、適正な組織運営に努めた。
- 2 社会福祉法人充実残額は発生しなかった。
- 3 各係の業務を共有化し、法人内の事務事業の課題解決、業務改善連絡調整を行い、組織運営の充実強化を図ることができた。
- 4 市からコミュニティソーシャルワーカー業務を受託したこと及び介護保険等システムの更新年度

であったことを一つのきっかけとし、ICTを活用したシステムを構築することができた。

5 災害における感染症に対応したBCP及び職員初動参集マニュアルについては、研修会を実施する予定であったが、コロナ禍によりできなかった。

## 1-2 財務運営

### 1 自主財源の増強

#### 目標

地域における住民相互の助け合いのための、地域福祉財源としての自主財源を確保する。

#### 事業実績

##### ① 会費収入 6,945,500円（2年度 7,085,700円）

会費状況表（別表2-28P）

##### ② 寄附金収入

（単位：円）

種別	令和3年度		令和2年度	
	金額	件数	金額	件数
社会福祉事業積立寄附	1,282,801	20	2,167,306	19
歳末協賛事業寄附	800,000	1	800,000	1
障害者福祉事業寄付	-	-	-	-
生きがいひろば事業寄附	138,970	-	236,351	-
寄付物品（備品）	129,219	1		
合計	2,350,990	22	3,203,657	20

##### ③ 事業収入

（単位：円）

事業名	令和3年度金額	令和2年度金額
車椅子貸出事業	134,000	136,500
広報紙広告事業	120,000	120,000
健康増進事業	172,630	182,020
総合会館貸館事業	617,527	563,723
福祉サービス利用援助事業	447,000	415,500
法人後見事業	180,000	180,000
社会福祉センター貸館事業	204,808	224,722
訪問サービス事業	120,300	127,200
通所サービス事業	424,800	338,250
生きがいひろば事業	108,000	150,000
介護保険対象外サービス事業	27,000	8,250
生活福祉資金貸付事業	58,000	60,000
ここめし	2,200	0
合計	2,616,265	2,506,165

#### ④ 積立金の効果的運用（運用状況）

（単位：円）

積立金等名称	前年度末現在高	本年度取崩額	本年度積立額	本年度末現在高	利息
基本財産	1,000,000	0	0	1,000,000	20
振興財団退職給付引当資産	5,269,460	259,668	648,012	5,657,804	—
退職給付引当資産	11,695,594	0	0	11,695,594	7,000
社会福祉事業積立資産	49,012,957	0	1,282,801	50,295,758	10,557
障害者福祉事業積立資産	19,600,648	0	0	19,600,648	13,300
地域福祉事業積立資産	14,401,383	0	0	14,401,383	3,580
ボランティア事業積立資産	7,366,058	0	639	7,366,697	639
健康増進事業積立資産	1,523,824	0	0	1,523,824	—
介護保険事業安定積立資産	15,026,737	0	0	15,026,737	4,859
合計	124,896,661	259,668	1,931,452	126,568,445	39,955

#### 評価と課題

- 1 コロナ禍により健康増進事業、総合会館貸館事業、生きがいひろば事業については、利用の制限を行ったため、収入は減少した。
- 2 積立金については、社会福祉事業積立金、地域福祉事業積立金については、事務事業経費の見直し、人件費の減少等により取り崩しを行わなかった。  
資産運用計画に基づき定期預貯金で運用した。  
積立金の運用については、理事会の承認を得て、資金運用計画に基づき実施した。

## 2 公費収入の強化

#### 目標

公益性の高い地域福祉事業について、補助金を確保するとともに委託事業収入、指定管理料収入を確保する。事業人件費についても理解促進を図る。

#### 事業実績

#### 補助金、指定管理料収入、受託事業収入の確保

（単位：円）

種別	令和3年度金額	令和2年度金額
補助金（市、県社協）	31,480,000	27,261,000
指定管理料収入、受託事業収入（市、県社協）	61,915,778	62,277,244
合計	93,395,778	89,538,244

#### 評価と課題

- 1 新規にコミュニティソーシャルワーカー業務委託を受託したこと等により、補助金は増加した。
- 2 通所サービス事業（市委託事業）については、利用者の増加に伴い、6年目で初めて黒字に転換した。

### 1-3 総合会館【市指定管理者制度】の管理経営

#### 目標

市民、各種クラブ、各福祉団体等に貸室、専用室を提供し、社会教育の増進及び福祉の向上に寄与する。

#### 事業実績

総合会館の管理運営

##### 【市指定管理者制度】

- ・利用者人数：8,554人（2年度：22,037人）
- ・利用料収入：617,527円（2年度：563,723円）

令和3年度末で本会の総合会館指定管理者が終了となり、令和4年度から総合会館の全面改修及び社会福祉センターの部分改修工事が実施されるにあたり、工事内容、工事期間中の対応等について市総務課と協議し、円滑な管理体制の整備を図った。

## 2 地域福祉事業部門

### 2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、地区社協の活動強化

#### 目標

地域の様々な生活課題への対応や地域を基盤にした解決につなげる支援や仕組みづくりを推進するため、小地域における住民主体の福祉活動を一層強化するとともに、社会福祉法人、民生委員・児童委員等関係機関や団体との連携、協働の取り組みを推進し、地域のつながりの再構築を図り、地域共生社会の実現に向けた実践を進める。

#### 事業実績

##### (1) 市社協の活動強化

- ア 地域福祉活動のネットワークづくりとしては、社会福祉施設、民生委員・児童委員、相談支援機関、行政との協働、連携体制づくりを意識しながら、相談支援活動を行うとともに各会議、研修会を実施した。
- イ 住民主体の小地域福祉活動の活性化については、地区社協活動の推進やふれあい・いきいきサロン活動の充実、見守り活動ネットワーク事業の拡充強化に取り組んだ。
- ウ 福祉活動の担い手づくりについては、地域福祉の担い手育成の研修会、ふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会、ひきこもりミニ勉強会を実施するほか、善通寺市地域支え合いセンターここ家での活動を推進し、福祉活動の理解及び協力を促進した。
- エ 総合的な相談支援体制の整備については、相談支援事業の強化として、生活困窮者自立相談支援事業、生活福祉資金貸付事業、福祉サービス利用援助事業及び香川おもいやりネットワーク事業の効果的連携により制度の狭間の課題や複合多問題のニーズに対応するとともに、民生委員・児童委員や地区社協と連携し、住民の身近な地域で相談がつながる体制づくりを進めた。また、地域活動の拠点整備として、地域支え合いセンターここ家における地域住民の交流、支え合い活動、居場所づくりを推進した。

##### (2) 第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画の策定及び推進の支援

3地区の地区社会福祉協議会における第4次地区地域福祉活動計画の策定について支援を行うとともに、5地区の地区社会福祉協議会における計画の推進を支援した。

##### (3) 第3次善通寺市地域福祉計画推進事業（地域の担い手育成の研修会）の推進

・地域福祉リーダー研修会の実施

日時 令和3年10月22日(金)、10月23日(土)

内容 「第14回全国校区・小地域福祉活動リーダーサミット in 北海道の研修会」  
(オンライン参加)

参加者 地区社協会長、地区連合自治会長、地区民生委員会会長副会長  
1日目26名、2日目27名  
市社会福祉課職員、市社協職員 8名

##### (4) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）業務の推進

ア 令和3年度地域福祉コーディネーター研修会（県社協主催）の受講（職員2名）

イ コミュニティソーシャルワーカー2名と地区担当職員3名の配置（兼務）

ウ 広報、啓発（チラシの作成と配布、社協だよ！に記事を掲載し啓発）

コミュニティソーシャルワーカーを配置し、相談機能を強化したことを周知、広報した。また、地区社協やサロン代表者会、地区民児協などに配布し、地域住民と解決する仕組みづくりのコーディネートやプラットフォーム（地域支えあい会議等）づくりについて、周知するとともに、住民の日頃の活動のつながりや、見守り活動ネットワークなど、地域住民の協力なしにはできない活動であることを伝えた。

#### エ 座談会の実施

3 地区社協において、地域課題の把握と C S W の周知のため座談会を実施した。

#### オ 相談連絡メモの見直し

#### カ 業務（個別支援・地域支援）の棚卸の実施

#### キ C S W システムの構築

相談内容の把握と共有、C S W 業務の可視化のため独自のシステムを構築した。

#### ク 個別相談、地域福祉活動の相談に対応

#### ケ ネットワークを活かした連絡調整

・子どもの貧困等の支援を目的とした食品や日用品等の寄付を支援団体につないだ。

### 評価と課題

- ・令和 3 年度においては、前年度につづいて新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が制限された。市社協として、失業や収入減となった世帯への生活福祉資金貸付事業の対応に追われ、地域への支援体制が十分とれなかった。
- ・地域福祉活動リーダー研修会では、地域活動代表者がコロナ禍における小地域福祉活動について、生活支援の活動やサロン、居場所、子ども食堂、福祉教育、人材育成といったテーマごとに分かれ、全国の様々な先進地での取り組みをオンラインにより受講した。活動における悩みを共有し、工夫した取り組みを学び、「地域のつながりや支えあいの基盤を絶やさない。」という思いを共感できる機会となった。
- ・コミュニティソーシャルワーカー業務の推進にあたり、相談の記録が事業ごとに管理されていることや、地域活動の活性化と人材づくりのための情報が分散し共有化されていないことが課題としてあるが、独自に構築したシステムの活用により、相談内容や地域課題を把握、共有するとともに、可視化し、活動に活かしていくことが必要である。
- ・コミュニティソーシャルワーカーの広報により、相談が寄せられた。
- ・地区社協の活動の継続と新たな取り組みとなる生活支援のシステムづくり、福祉委員の設置、事務局体制整備、居場所づくりなどを進めるため、地域のつながりづくりや話し合いの場をどのように進めたらよいか地区社協から相談があり、コミュニティソーシャルワーカーの機能を活用し、座談会を実施した。座談会では、民生委員・児童委員や各種団体、サロン代表者等があつまり、地域の現状と課題について意見を出し合う機会をもった。
- ・座談会の実施等から「単位自治会がなくなってきている。（自治会活動の負担があるため）」「会長や代表者を担う人がいないため、老人クラブやサロンなど、集まる場をやめるところある。」「コミュニティの活性化策が少ない。（単位自治会など）」「負担が多い。」「リーダー不足」「地域アセスメントの必要性」「民生委員の改選に伴う担い手づくり研修の検討」などの課題があげられた。
- ・個別の相談として「中卒者、高校中退、ひきこもりなど、若い人の相談できる場所がない。」という内容が多かった。

## 2-2 地域福祉活動支援事業の推進

### 1 地区社協活動事業の推進

#### 目標

日常生活圏域単位で地域の状況に応じた支え合い活動を活発化させ生活課題を抱えた人が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう地域づくりを行う。

#### 事業実績

##### (1) 地区社協の組織と活動の強化（別表 3 29P～37P）

###### ア 地区社協活動を担う人材の育成

- ・ふれあい・いきいきサロン研修会、サロン代表者会の実施支援
- ・地区社協役員研修会の実施支援

###### イ 運営費事業費の助成

- ・助成金額 8,219,050 円（共同募金助成金含む。）

- ウ 地区社協担当職員の配置
  - ・地区社協総会（書面決議）の支援、役員会、福祉委員会に参加した。
- エ 見守り活動ネットワーク事業の推進
  - 筆岡地区を加え、6地区社協において、民生委員・児童委員と見守り活動推進員の連携による要援護者の見守り活動を推進した。また、地区ごとに連絡会や研修会を行い、見守り対象者や地域の課題など情報交換を行った。次年度には南部地区においては見守り活動ネットワーク事業の立ち上げについて協議を行い、見守り活動推進員の推薦を進めていくこととした。
- オ 地区支え合い会議の企画、実施検討
  - 生活福祉課題を抱えるケースについて、自治会や民生委員から相談を受け、市や社協、相談支援機関が出席し、地区支え合い会議を数件実施した。
- カ 地区社協役員、福祉委員等研修会の実施

## (2) 地区社協会長連絡協議会の開催

令和3年4月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次地区地域福祉活動計画の策定と推進について（5地区完成、3地区は策定）</li> <li>・コロナ禍における地区社協の活動について</li> <li>・地区社協総会等（一般会費依頼、総会、役員会の実施方法）</li> </ul>
令和3年7月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区社協の活動状況と令和3年度事業の進め方について</li> <li>・市社協としてコミュニティソーシャルワーカーの活動方針等</li> <li>・市社協特別会費について</li> </ul>
令和3年10月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協役員等研修会について</li> <li>・サロンパワーアップ研修について</li> <li>・CSWのちらし配布について</li> <li>・各地区社協のこれまでの活動状況と今後の活動予定について他</li> </ul>
令和4年3月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協会長連絡協議会役員を選任について</li> <li>・各地区社協の活動状況について</li> <li>・令和4年度地区社協助成金交付基準表(案)及び令和3年度の実績について</li> <li>・令和4年度市社協の事業方針について</li> </ul>

### 評価と課題

- ・地区社協会長会において、コロナ禍における地区社協活動の現状や課題について情報交換、協議がなされた。毎回、各地区の活動状況、コロナ禍における中止や実施する上での注意点について、特に、高齢者等外出支援事業、ふれあい・いきいきサロンの実施について検討した。また第4次地区地域福祉活動計画の策定について協議した。コロナ禍においても、これまで積み重ねてきた給食サービスや見守り活動、サロン活動における安否確認など、つながりづくりを絶やさずどのように進めたらよいかを検討した。

## 2 ふれあい・いきいきサロン事業の推進

### 目標

地域の支え合い、閉じこもり防止及び介護予防を目的とし、利用者及び運営ボランティア等の参加参画で小地域ごとに自主的な相互支援活動としてのサロン活動を展開する。

### 事業実績

#### (1) サロン結成

98グループ（2年度実績：101グループ）

#### (2) サロン運営支援

- ・活動の企画相談支援

- ・活動費助成：総額 969,000 円助成
- ・レクリエーショングッズの貸し出し：16 件
- ・各地区のサロン代表者会、交流会への協力
  - 中央：令和 4 年 3 月 10 日（公民館）
  - 東部：令和 4 年 3 月 11 日（公民館）
  - 西部：令和 4 年 3 月 25 日（公民館）
  - 南部：令和 4 年 3 月 8 日（公民館）
  - 竜川：令和 3 年 10 月 29 日、令和 4 年 3 月 11 日（公民館）
  - 筆岡：令和 3 年 6 月 23 日、12 月 14 日、令和 4 年 3 月 16 日（公民館）
  - 吉原：令和 3 年 8 月 5 日、令和 4 年 3 月 17 日（公民館）

### (3) リーダー等研修開催

- ・パワーアップ研修会の開催
  - ① 「つながるしくみを作ろう！楽しい掲示板作り」
    - 講師 NPO 法人さぬきっずコムシアター 百々 祐子氏
    - 日時 [第 1 回] 令和 3 年 11 月 10 日  
[第 2 回] 令和 3 年 11 月 17 日  
[第 3 回] 令和 3 年 11 月 24 日
    - 場所 市総合会館 2 階 ボランティア室
  - ② 「みんなで楽しく！体と頭スッキリ体操」
    - 講師 健康運動指導士 森 明美氏
    - 日時 [第 1 回] 令和 3 年 11 月 26 日  
[第 2 回] 令和 3 年 11 月 29 日
    - 場所 市総合会館 4 階 軽運動室
  - ③ 「おしゃれな切り絵ポップアップカードを作ろう！」
    - 講師 後藤 廣美氏
    - 日時 [第 1 回] 令和 3 年 12 月 15 日  
[第 2 回] 令和 3 年 12 月 17 日
    - 場所 市総合会館 3 階 学習室

参加合計人数 58 人

### (4) サロン活動の啓発

- ・広報誌（年 4 回発行）において、サロン活動を紹介した。

## 評価と課題

- ・高齢化による参加者の減少や新たな参加者が少ない、また、リーダーの後継者がいないなど活動が続けられないことが課題である。サロングループの数は年々減少し、また、リーダーの高齢化が進み、活動をする上での負担が大きくなっている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、サロン代表者へ文書を通じて、活動を行う際は感染防止対策を講じるよう注意喚起と、つながりを絶やさないための活動を続けていただくようお願いした。
- ・コロナ禍で活動が制限される中でもサロングループの多くは、これまでのつながりがきれることがないように工夫し、電話での安否確認や手紙をお届けするなど、感染防止に気を付けて活動を続けている。
- ・サロングループの代表者を対象に、パワーアップ研修会を分散型で実施し、58 人の参加があった。

### 3 地域の居場所づくり事業の推進

#### 目標

ひきこもり状態にある方やその家族が気軽に相談でき、安心して過ごせる居場所作りや地域の理解者を増やすことと、市の関係各課や関係機関とのネットワーク構築のため、市と共催でひきこもりミニ勉強会を実施した。

#### 事業実績

「ひきこもりミニ勉強会」の実施

実施回数：3回

※当初の計画では今年度4回開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため第3回が延期となり、第4回の日程に第3回をあわせて開催したため実施回数は3回となった。

〔第1回〕 日 時 令和3年7月20日

場 所 総合会館2階 ボランティア室

テーマ ひきこもりについて一緒に考えてみよう

参加者 参加者11人 スタッフ4人 計15人

〔第2回〕 日 時 令和3年10月21日

場 所 総合会館3階 研修室

テーマ 本人の気持ち、家族の気持ちを考えてみる（架空の事例を用いて）

参加者 参加者15人 スタッフ3人 計18人

〔第3回〕 日 時 令和4年3月16日

場 所 総合会館3階 研修室

テーマ：県のひきこもり支援体制と社会資源について

講師 香川県ひきこもり地域支援センター「アンダンテ」 藤田 美絵 氏

※第3回と第4回を合わせたテーマで開催

参加者 参加者13人 スタッフ3人 計16人

#### 評価と課題

- ・令和元年度と2年度に開催した「ひきこもりに関する研修会」の参加者と、ひきこもり状態にある方の家族に案内をし、延べ39人の参加があった。
- ・家族の参加も一定数あり、ひきこもり当事者や家族の居場所についての関心が寄せられていることがわかった。
- ・参加にあたってのアンケートで、ミニ勉強会において参加者同士の交流も求められていることがわかった。第2回ではグループごとに気軽に話ができる機会を設け、少人数で安心してひきこもりについての話をすることができよかったと参加者から感想が寄せられた。

### 4 高齢者等外出支援事業

#### 目標

高齢者等の日常生活支援や生きがいがづくり又は社会参加を促進し、閉じこもり防止と介護予防を目的とした外出支援自動車の運行を地区社協との協働で行う。

#### 事業実績

##### (1) 【生活支援型】買い物の支援（吉原地区社協）

・利用者数 0人（2年度 0人）

・運行回数 0回（2年度 0回）

##### (2) 【生きがい社会参加促進型】温泉、四季の行事巡りなど（8地区社協）

・利用者数 406人（2年度 203人）

・運行回数 76回（2年度 37回）

## 評価と課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生きがい社会参加型は感染状況により休止と再開を繰り返した。生活支援型については、実施地区である吉原地区において役員会等を実施し、再開の検討を行ったが、感染リスクを考慮し、実施には至らなかった。

## 5 障がい者福祉の推進

### 目標

障がい者や課題を抱える人が地域で安心して暮らせるように、その活動を支援する。

### 事業実績

#### (1) 当事者組織の活動支援

- ・普通寺市が実施する精神障がい者の居場所づくり事業「ふれあいポートぜんつうじ」に職員が参加した。

#### (2) 福祉自動車貸出

- ・利用回数 95回（2年度106回）
- ・貸出車両 2台

#### (3) ふれあいふくしまップのweb上での更新と公開

- ・社協広報誌2月号で記載情報の更新、追加の依頼をし、更新を行った。

## 評価と課題

福祉自動車貸出事業については、事故が起こった際の保険の取り扱いなどの課題があり、今後も継続して協議していく必要がある。

## 6 地域安心生活推進事業の推進

### 目標

居宅要援護者把握事業について、地域の日常的な見守り活動や緊急時に活用できるように、民生委員・児童委員や行政とそのあり方を協議し、実施する。

### 事業実績

#### (1) 民生委員との協働による居宅要援護者把握事業の実施

- ・見守り活動に活用することを目的とし、調査項目を減らし、65歳到達者の訪問調査を民生委員・児童委員の協力により実施した。安心キットについては、希望者に配布し自己管理していただく方法で推進した。  
（新規調査依頼件数 351件、うち登録同意数76件、新規安心キット配布数 57件）
- ・民生委員や本人からの登録内容の変更を随時、受付けし、要援護者台帳の更新を行った。（月平均15件）
- ・要援護者マップの更新を行った。
- ・要援護者台帳システムの見直しを行った。

#### (2) 地域での見守り活動の推進

- ・コロナ禍において、外出や地域の交流行事が中止となり、高齢者等の孤立化が懸念される中、民生委員・児童委員や見守り活動推進員、福祉協力員、また、ふれあい・いきいきサロンによる見守り、声かけを継続して行った。
- ・広報活動として、市社協広報紙「社協だよ！」において、各地区の見守り活動関連記事を掲載し、見守り活動の啓発を行った。

## 評価と課題

- ・事業が見直され、見守り活動を目的とした居宅要援護者把握事業となったが、この事業で把握される一人暮らし高齢者等については、災害時や災害発生後の安否確認等の支援も含めて関係者で協議していく必要がある。

## 7 関係団体の運営に係る事務の受託

### 目標

関係団体の事務局事務を受託し、併せて活動を支援する。

### 事業実績

#### (1) 民生委員児童委員協議会運営事業【市受託事業】

- ・市民児協事務局の担当（事務、会計、企画相談支援）
- ・民協理事会、単位民児協への出席 92回
- ・主任児童委員定例会、研修会への出席 10回
- ・全員研修会、県、県民児協研修会等各種会議、視察受入等の参加開催支援 10回

#### (3) 老人クラブ連合会事務局事務【市受託事業】

- ・社会奉仕活動事業 3回
- ・月例理事会等 9回
- ・県老人会議等 6回

### 評価と課題

民生委員児童委員協議会及び市老人クラブ連合会の運営が円滑に進められるよう事務局として連絡、調整、企画の支援が行えた。

## 8 物品貸出事業

### 目標

車椅子や福祉教育物品等を貸し出すことにより、生活支援や福祉教育の推進を図る。

### 事業実績

#### (1) チャイルドシート貸出し

- ・新規貸出し 35件、継続貸出し 31件

#### (2) 車椅子貸出し

- ・210件

#### (3) 福祉教育物品等の貸出し

- ・レクリエーション遊具 20件
- ・ボランティア、福祉教育備品 1件
- ・イベント関連 5件

### 評価と課題

チャイルドシート貸出については、需要は多いが、安全性の担保がなく、リスクマネジメントの観点から検討が必要である。

## 9 広報、啓発の推進

### 目標

地域の方への情報発信と啓発活動を推進し、地域福祉活動の理解を図る。

### 事業実績

- ・「社協だよ！」を年4回発行し、全世帯へ配布した。
- ・ホームページの完全リニューアルのため、業者と打合せを実施し、素案を提出した。

## 10 福祉教育推進事業の推進

### 目標

地域住民の福祉に関する理解と関心を高め、地域における主体的な福祉活動を活性化し、地域の福祉力を高めていく。

### 事業実績

東部小学校からの依頼で、福祉教育備品の貸し出しとあわせて、職員が小学校へ出向き、車いす体験や高齢者疑似体験など福祉体験授業を行った。

## 11 生活支援コーディネーター業務の受託【市受託事業】

### 目標

日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要な多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスの調査を行う。

### 事業実績

#### (1) 地域に不足する高齢者に対するサービスの把握

- ・民生委員・児童委員や地区社協関係者から寄せられる相談の中で、高齢者の生活福祉課題を把握した。

#### (2) 善通寺市生活支援等サービス協議体への情報提供

- ・協議体に参加し、社会福祉協議会が把握した高齢者の生活福祉課題について報告した。

### 評価と課題

次年度においても、民生委員等から高齢者の生活福祉課題を把握するとともに、座談会等において地域課題を把握していくことが必要である。

### 3 ボランティア活動部門

#### 1 ボランティア、市民活動の推進

##### 目標

市民による自主的なボランティア活動が展開しやすい環境を整えボランティア、市民活動を活性化させ、地域の生活課題への対応ができるボランティアの育成とそのネットワークづくりを目指す。

##### 事業実績

###### (1) ボランティア市民活動センター「ボラン家」の運営

- ・ フリースペース、活動紹介コーナー、情報発信コーナーの設置  
開所日数：236日（月曜から土曜の9時から17時まで）  
フリースペース利用者数：501人  
利用団体：くすくす、ふらっとふぁみりーなど  
活動紹介スペースの利用（ミニ作品展：5回）  
ボランティア団体紹介コーナーの設置
- ・ コミュニティかふえの運営支援（週1回火曜日）  
コミュニティかふえ実施回数：17回、来場者数：469人

###### (2) ボランティア情報提供、啓発

- ・ 「社協だよ！」でのボランティア・市民活動センターの周知
- ・ 「社協だよ！」でのDoボランティア情報コーナーにおける個人ボランティア及びボランティア団体などの紹介（掲載：4回）

###### (3) ボランティアグループの支援、連携

- ・ ボランティア保険の加入促進  
活動保険（団体、個人等）：26件（526人）、行事用保険：3件（100人）
- ・ 活動の相談援助

##### 評価と課題

活動紹介スペースを利用して、ミニ作品展や常設掲示に市民やボランティアグループ、当事者団体が参加され、作品を見るためにも多くの方が来場された。また、情報交換の場としての利用があった。既存のボランティア団体や個人の支援を継続的に行うと同時に、ボランティア活動の啓発や人材育成などが今後の課題である。

#### 2 災害ボランティア活動支援体制の整備

##### 目標

災害時にボランティア活動が円滑かつ効果的に行えるよう、支援体制を整備するとともに、感染症にも対応したマニュアルの検証を行う。

##### 事業実績

新型コロナウイルス感染症に対応したボランティアセンター設置運営マニュアルに基づき、研修を実施する計画を検討したが、コロナ禍により、マニュアルの配布、周知に留まった。

##### 評価と課題

実際の災害発生時を見据えた職員の研修を実施する必要がある。

## 4 相談支援事業部門

### 1 総合相談・援助センターの設置と運営

#### 目標

地域住民の様々な相談に気軽に応じ、専門相談機関への紹介又は連携を行い福祉サービス等の情報提供を行う。

#### 事業実績

##### (1) 相談事業

区分	回数	相談件数
法律相談	12回	57件
法務登記相談	11回	26件
一般相談	24回	14件

##### (2) 一般相談員研究協議会

3月4日に実施。研修を実施。

研修① 調停について

講師:調停の経験者 3名

研修② ほっこり食堂・ほっこりパントリーについて

講師:NPO法人子育てネットくすくす 間島いずみ氏

#### 評価と課題

- ・一般相談では、専門的な相談もあり、本会実施の法律相談、法務登記相談や他関係機関に繋ぐことが出来た。

## 2 権利擁護支援事業の推進

#### 目標

判断能力が不十分な高齢者、障がい者等が地域で安心して暮らせるように関係機関と連携を図りネットワークを構築し、福祉サービス利用援助事業、法人後見事業を推進する。

#### 事業実績

##### (1) 福祉サービス利用援助事業の推進【県社協委託事業】

- ・専門員 3人、生活支援員 11人
- ・専門員研修会 2回（権利擁護事業担当者会、相談事業担当者定例会 等）
- ・生活支援員等研修 4回（生活支援員研修会、権利擁護人材育成研修会 等）

#### 【契約、相談状況】

- ・契約締結件数（令和3年度新規）

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	生活保護(再掲)	合計
契約者数(人)	1	4	1	0	2	6

- ・契約終了件数（令和3年度内）

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
終了者数(人)	1	0	1	0	2

- ・実利用件数（令和4年3月末現在）

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
利用者数(人)	7	11	6	2	26

・相談内容 ※重複あり（単位：件）

種 別	高齢者	知的	精神	その他	合計
福祉サービスの手続き	0	1	1	0	2
日常的な金銭管理	1 2 1	1 7 2	1 0 5	4 5	4 4 3
書類預かり	2 1	3	0	0	2 4
保健サービスの手続き	0	0	0	0	0
医療に関する事項	1	0	0	0	1
福祉サービスに関する苦情	0	0	0	0	0
今後の生活設計	3 4 8	1 6 8 5	7 2 4	1 6 5	2 9 2 2
本事業に関する問い合わせ	0	0	0	0	0
成年後見制度に関する問い合わせ	0	0	0	0	0
その他	4 0	0	0	0	4 0
合 計	5 3 1	1 8 6 1	8 3 0	2 1 0	3 4 3 2

## (2) 法人後見事業の推進

受任件数：1件 相談件数：0件

## (3) 関係機関とのネットワークづくり

- ・NPO 法人後見ネットかがわとの連携、相談支援
- ・中核機関との連携

## 評価と課題

- ・利用相談の増加に伴って、事業の実施の体制を整えていく必要がある。
- ・単に金銭の管理だけではなく、複合的な課題を抱えている世帯が多く、生活困窮者自立支援事業やCSW担当者、また利用者が関係する施設や事業所、行政等の関係機関と連携し、密な情報交換を行うことで、重層的な支援に努めた。
- ・権利擁護人材育成研修への周知、案内を行い、新しい生活支援員等の養成に取り組んだ。
- ・新型コロナウイルスの影響で対面での面談が難しい期間もあったが、感染症予防に努めながら本人に寄り添い、ニーズに応じた支援が行えた。
- ・善通寺市の中核機関と連携し、担当者会へ参加（2カ月に1回）した。権利擁護支援体制に関する課題を協議するのニーズ把握や、ケースの相談を行った。

## 3 ぜんつうじ生活自立相談支援センターつながるねっとの運営（市委託事業）

### （生活困窮者自立相談支援事業の推進）

#### 目標

生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の自立の促進に向けた自立相談支援等を進める。行政や関係機関との連携を促進する。

#### 事業実績

##### (1) 自立相談支援事業の推進（市委託事業）

- ・総括 1人（局長兼務）、主任相談支援員 1人（専任）
- ・相談支援員兼就労支援員 1人（地域福祉兼務）

【相談実績】新規相談 299件（令和2年度 331件）

① 相談者

区分	本人	家族、親族	関係者（関係機関）	知人、隣人	その他
件数（件）	221	14	53	9	2

② 相談経路

区分	直接	関係者（関係機関）	その他
件数（件）	94	※199	6

※関係機関経由内訳

区分	社会福祉課	税務課	子ども課	高齢者課	市（左記以外の担当課）	病院
件数（件）	20	2	16	9	5	0

市以外の行政機関	民生委員・児童委員	ハローワーク	障害の相談支援機関	社協（県、他市町含む）	その他
2	5	8	8	100	24

③ 対象者性別

区分	男性	女性	不明、その他
件数（件）	155	129	15

④ 対象者の年代

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60～64才	65～69才
件数（件）	1	44	57	50	38	13	15

70代	80代以上	不明
35	9	37

⑤ 相談内容（初回相談時） ※重複あり

区分	件数（件）
病気や健康、障がいのこと	36
住まいのこと	26
収入、生活費のこと	186
支払、債務のこと（家賃、光熱費、医療費、税金、ローン等）	39
仕事に関すること（仕事探し、仕事上の不安、トラブル等）	30
家族との関係について（子育て、介護含む）	22
ひきこもり、不登校	10
食べるものがない	16
その他（地域との関係、日常の心配事等）	48

⑥ 相談継続状況

区分	相談継続	経過観察	終結
件数（件）	131	58	110

⑦ 支援申込みの有無

区分	申込み 有	申込み 無
件数（件）	119	180

- ⑧ 対応状況（前年度からの継続を含む。）
- ア. 支援調整会議の実施 13回13ケース（プラン作成12件）
  - イ. 住居確保給付金の利用 5件
  - ウ. 任意事業の利用
    - ・認定就労訓練事業 1件
    - ・学習支援事業の利用 2件
  - エ. 独自事業で対応
    - ・ストックヤードの利用 5件
    - ・フードバンクの利用 90件
    - ・家計相談支援 17件
  - オ. 生活保護受給者等就労自立促進事業の利用 2件（うち、就労決定1件）
  - カ. 自立相談支援事業所による就労支援 7件（うち、就労決定5件）
    - ※他機関との連携支援による就労決定も含む
  - キ. 生活福祉資金の貸し付け利用支援
 

通常の貸付	2件
特例貸付	105件
  - ク. 法テラスを利用しての債務整理 1件
 

債務整理相談	5件
--------	----
  - ケ. 生活保護へのつなぎ（受給決定）4件
  - コ. 居住支援（アパート探し、転居支援）2件

## 評価と課題

- ・令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受けた方の貸し付け（特例貸付）に関する相談が多く寄せられ、貸し付け担当者と連携して支援を行った。
- ・令和4年6月から特例貸付の償還手続きが始まることもあり、貸付担当者とのさらなる連携が必要である。
- ・ひきこもりに関する相談支援において、家族支援の重要性を感じ、KHJ全国ひきこもり家族連合会主催の研修会（「ひきこもり支援力向上研修会」および「オンライン実践編（家族支援）」）に参加し支援力向上に努めた。
- ・生活困窮者自立支援全国ネットワーク主催の全国大会（オンライン開催）に参加し、自立支援事業の理念や全国の実践事例等について学ぶことができた。
- ・県社協主催の3担当（生活福祉資金、日常生活自立相談支援事業、生活困窮者自立支援事業）合同定例会や、生活福祉資金の説明会（オンライン開催等）に参加し、ネットワークの構築や連携に努めた。
- ・地域関係者の協力により年末にフードドライブを行い、コロナ禍において生活に何らかの影響を受けている世帯に対し、食料品の提供を行った。（令和4年1月に開催。）
- ・顧問弁護士に日常的に相談できる環境にあることで、法的な支援が必要な方をスムーズに法律相談につなぐことができた。
- ・住居確保給付金や生活困窮者自立支援金の利用がスムーズに行えるよう、社会福祉課と連携して対応した。
- ・特例貸付が終わったあともまだ困窮状態が続くと思われる世帯があり、必要に応じて生活保護に円滑につながるよう社会福祉課と連携していくことが求められる。
- ・特例貸付終了後に継続しての関りが難しい方が多くいるため、どのようにアプローチしていくか検討していくことが昨年同様課題となっている。

## 4 香川おもいやりネットワーク事業の推進

### 目標

地域の深刻化する福祉課題や生活課題に対応するため、香川県内の社会福祉法人や関係機関、団体が協働し、生活のしづらさを抱え支援を必要とする方をトータルで支える仕組みづくりを進める。社会資源やサービスの開発、人材の育成、福祉教育の充実、実施体制の整備に取り組む。

## 事業実績

### (1) 総合相談支援（緊急的経済支援）

- ・ 0件（令和2年度：1件）

### (2) 施設や保健、福祉、医療等の関係者の連絡会の実施

- ・ 地域ネットワーク会議の実施

日時 令和4年1月18日

内容 講演「いのちを守るネットワーク～地域で暮らす人がつながるためにできること」

講師 元 社会福祉法人 善通寺希望の家 統括事業管理者 田中 慎治氏  
グループワーク（活動上の課題等について）

### (3) 連携、協働による事業企画、事業の推進

- ・ ひきこもりに関する研修会、ここめしを実施した。ここめし女子会、ここ寄席については新型コロナウイルス感染症の状況を見て中止した。

## 評価と課題

- ・ 制度では対応できない生活のしづらさを抱える方の相談支援について、生活困窮者自立支援事業担当者や関係機関と連携し実施した。
- ・ 生活困窮者自立支援事業と連携し、香川おもいやり認定事業として、「ひきこもりに関する研修会」を実施し、ひきこもりの家族の方々が安心して過ごせる居場所の検討を行った。
- ・ コロナ禍のため、ここめし女子会等が実施できなかったが、新年度においては実施方法を工夫して実施していくことが必要である。
- ・ 地域ネットワーク会議では、いのちを守るネットワークと題し、地域には様々な障がいを持つ方が暮らしている中で、災害時に支援してほしいことや、障がいによって必要な支援方法、情報伝達方法もことなることを改めて知って、専門職が日頃からできる障がい者の災害時の支援方法の整理や、地域の人とのつながり方などを共有できる機会をどのように作るかなど、講演をいただき、グループ討議において、分野を越えて地域の課題を関係者が検討して取り組んでいくことの重要性を共有できる機会となった。地域ネットワーク会議を継続していく必要性を感じた。

## 5 生活福祉資金貸付事業の推進【県社協受託事業】

### 目標

低所得者又は障がい者、高齢者世帯などに対し、資金の貸し付けと必要な援助指導を行うことによって、生活の自立を促進する。

## 事業実績

### 資金の貸付

新型コロナウイルス感染症の影響により、休業や失業等により生活資金が必要な方のための特例貸付の実施に伴う相談の体制を整備し、支援を行った。

- ・ 相談件数：487件

- ・ 令和3年度申し込み件数：351件（内 貸付決定件数：329件）

貸付種別内訳：緊急小口資金 15件（内 生活保護つなぎ資金：13件）

教育支援資金 2件

福祉資金（福祉費）1件

特例貸付（緊急小口資金）144件

特例貸付（総合支援資金）185件

## 評価と課題

- ・通常の緊急小口資金の申し込みの半数以上が生活保護のつなぎ資金で、福祉事務所からの相談も増加していることから行政との協働体制が重要である。
- ・生活困窮者自立相談支援事業や福祉サービス利用援助事業とも連携して相談者の支援を行う必要がある。
- ・教育支援資金、福祉資金等、資金の種別によっては揃える書類が多くて労力がかかる上、貸付審査は原本が届いてからになり時間もかかるため、緊急の支援が必要な場合は手続きの簡素化を検討する必要がある。
- ・特例貸付については、申請者が資金の借入のみを目的としている方が多く、それ以上の関わりを望んでいないため、本来の相談支援のようにはいかない。また、経済状況の回復が見込めない中、貸付によって負債だけが増える状況で、貸付による生活再建は困難のように感じる。
- ・令和4年度より、特例貸付の償還が始まるため、生活困窮者自立支援事業と連携しての対応がますます必要である。

## 5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門

### 目標

多種多様な取組みを地域住民が主体的に選択し、参加参画できるように企画し、連絡、調整する。また、複雑多様化する地域ニーズに対応できるよう、住民主体の多様なサービスを有した新たな介護予防と地域福祉活動の拠点の機能を最大限活かした支援を市全体で検討し構築していく。

### 事業実績

#### 1 生きがいひろば事業の推進

##### (1) 生きがいひろば事業の運営

- ・地域住民の趣味や特技を活かして、体操や手芸、工作等の講座を実施し、新たな交流を図り、いきいきと過ごせる居場所づくりを推進した。
- ・講座実施回数：90回（2年度：90回）
- ・講座利用人数：298人（2年度：398人）
- ・その他の利用者数：1007人（2年度：800人）
- ・ボランティア数：66人（2年度：69人）

##### (2) ワンディキッチン<sup>®</sup>の運営支援

食を通じたコミュニティづくりを目指して、地域住民の主体的な参画のもと日替わりシェフの店なないろの運営を支援した。新たなつながり、支え合い活動を推進するとともに、地域住民が食を中心に気軽に寄れる居場所を提供した。

- ・開店日数：107日（2年度149日）
- ・利用者数：3173人（2年度：4387人）
- ・シェフ、アシスタント数：284人（2年度：399人）
- ・シェフの会：9回開催

##### (3) 発達障がい者等の居場所事業（ゆるゆるカフェ）

昨年度に引き続き、対象者を発達障がいのある方に限らず、コミュニケーションに不安を抱える方とし、居場所を開催した。その中で発達障がいに関する相談が気軽にできるよう、アルプスカがわ地域サポート委員の協力のもと、年に3回相談会（カフェde相談）を設けたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により実施には至らなかった。

- ・開催回数：7回（新型コロナウイルスの影響により5回中止となっている。）
- ・参加人数：参加者7人、スタッフ18人

##### (4) ここめし、ここめし女子会の実施

平成30年度から、生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりが薄い方を対象にここめしを開催していたが、昨年度は新型コロナウイルスの影響によりすべて中止となったが、今年度は、コロナ禍においても、食を通じたつながり作りの場が持てるよう、感染対策をしながら10月に1回開催することができた。ゆるやかにつながりを感じられる空間で、地域のスタッフの方が作ってくれた食事をもって、楽しいひと時を過ごすことができた。

- ・ここめし打ち合わせ会 令和3年10月
- ・参加人数：参加者12人、地域のスタッフ4人、社協スタッフ4人

ここめし女子会を令和3年1月に開催する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により実施には至らなかった。

## (5) ここ寄席の検討、実施

地域住民を対象に地域で活動している方や当事者等から活動していることや思いを語っていただき、分かち合う機会を検討していたが、新型コロナウイルスの影響により、実施には至らなかった。

### 評価と課題

- ・生きがいひろば事業や日替わりシェフの店などについては、活動も定着し、地域住民の交流や支え合い活動が推進された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生きがいひろばは長期にわたり中止した。
- ・発達障がい者等居場所事業については、前年度同様対象者の幅を広げ、コミュニケーションに不安を抱える方を対象とし実施した。居場所の取り組みの一環として、アルプスかがわ地域支援サポート委員に相談員として来てもらい、居場所に参加する中で気軽に発達障害に特化した相談が受けられる相談会（カフェ de 相談）も予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、すべて中止となった。これまでの参加者が就労等につながり、時間的に居場所への参加が難しくなったこともあり、参加者がいない回もあったが、就労等につながったことも一つの成果として考え、来年度も周知、開催の工夫をしながら事業を継続していく。
- ・ここめしについては、コロナ禍でも開催できる方法を検討し、10月に1回開催することができた。少人数、短時間での開催だったが、これまでの参加者と久しぶりに顔をみて話ができ、また、新しい参加者とも食を通じたゆるやかなつながりができ、参加者から今後も開催してほしいとの感想が寄せられた。ここめし女子会は1月に開催の予定だったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

## 2 通所サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市受託事業】

後掲（6 在宅福祉事業部門）

## 3 通所型一般介護予防事業（くすの木脳トレコース事業）【市受託事業】

後掲（6 在宅福祉事業部門）

## 6 在宅福祉事業部門

訪問介護事業、障害福祉サービス事業のサービス提供時間の増及び通所サービス事業利用者の増そして訪問体制の効率化により介護保険事業等収支の改善を図った。

また、国の処遇改善支援金の活用による賃金改善に係る規程を改正し、介護職員の人材確保に努めた。

### 6-1 ホームヘルプサービス

#### 目標

支援を必要とする高齢者や障害者及び難病患者が在宅で生活を営むために必要な介護及び生活援助を行い、自立促進と社会的孤立の解消及び要介護、要支援状態への予防に努め、在宅生活を継続できるよう支援する。

#### (1) 障害福祉サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援事業）

**達成基準** 延べ利用者数：年間 290 人、時間数：3,300 時間、回数：3,300 回

#### 事業実績

延べ利用者数：年間 272 人（2 年度：287 人）

延べ利用時間数：3,333 時間 30 分（2 年度：2,941 時間）

延べ利用回数：3,401 回（2 年度：3,148 回）

サービス種別	年間延べ利用時間（時間）	年間延べ利用回数（回）
身体介護	231：30	463
家事援助	2319：00	2,326
通院介助（身体介護を伴う）	125：00	57
同行援護（身体介護を伴わない）	52：00	52
同行援護（身体介護を伴う）	426：00	323
移動支援	180：00	180
合計	3333：30	3,401

#### (2) 訪問介護事業

**達成基準** 延べ利用者数：年間 250 人、時間数：2,500 時間、回数：2,500 回

#### 事業実績

延べ利用者数：年間 241 人（2 年度：210 人）

延べ利用時間数：3087 時間（2 年度：2,481 時間）

延べ利用回数：3,073 回（2 年度：2,266 回）

#### (3) 指定訪問サービス事業 （介護予防・日常生活支援総合事業）【市委託事業】

**達成基準** 延べ利用者数：年間 630 人、時間数：4,200 時間、回数：4,200 回

#### 事業実績

延べ利用者数：年間 634 人（2 年度：659 人）

延べ利用時間数：4,226 時間 15 分（2 年度：4,557 時間 30 分）

延べ利用回数：4,228 回（2 年度：4,558 回）

区 分		令和4年3月 (人)	令和3年3月 (人)	前年対比 (人)
(2) 訪問介護事業	要介護1	15	11	4
	要介護2	2	8	△6
	要介護3	2	2	0
	要介護4	0	1	△1
	要介護5	0	0	0
(3) 指定訪問サービス事業	総合事業 要支援1	27	34	1
	総合事業 要支援2	20	20	△6
合 計		65	76	△11

**(4) 訪問サービス事業  
(介護予防・日常生活支援総合事業)【市委託事業】**

<b>達成基準</b>	延べ利用者数：年間 200 人
<b>事業実績</b>	延べ利用者数：年間 199 人 (2 年度：206 人) 延べ利用時間数：603 時間 45 分 (2 年度：636 時間) 延べ利用回数：805 回 (2 年度：848 回)

**6-2 居宅介護支援事業 (認定調査含む)**

**目標** 住み慣れた地域での生活が継続できるよう地域の社会資源と協働しながら要介護者の自立支援を行う介護サービスの調整だけでなく生活全般を支援し生活環境の改善が可能になるよう、社協らしいプランを作成する。

<b>達成基準</b>	延べ利用人数年間：980 人 月間：85 人
<b>事業実績</b>	延べ利用人数年間：985 人 (2 年度：1,065 人)

**6-3 通所サービス事業 (介護予防、日常生活支援総合事業)【市受託事業】**

**目標** 脳トレなどの機能の活性化を目的とした介護予防レクリエーションを実施し生活にメリハリをつけるとともに、活動を通して、支えられるだけでなく地域でなすべき役割があることを認識していただき、地域で共に支え合う関係づくりを推進する。

<b>達成基準</b>	登録者数：50 人、
<b>利用実績</b>	登録者数：48 人 (2 年度：43 人) 延べ利用人数：2,833 人 (2 年度：2,256 人) ボランティア延べ人数：191 人 (2 年度：328 人)

**6-4 通所型一般介護予防事業 (くすの木脳トレコース事業)【市受託事業】**

<b>利用実績</b>	登録者数：27 人 (2 年度：21 人) 実施回数：62 回 (2 年度：78 回) 延べ利用人数：364 人 (2 年度：520 人) サポーター延べ人数：297 人 (2 年度：328 人)
-------------	--

**評価と課題**

- ・障害福祉サービスの利用者は減少したが、時間数は昨年より増えた。
- ・訪問介護事業と指定訪問サービス事業の利用者は減少したが訪問時間数は増えた。
- ・通所サービス事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響で休みの利用者もいたが、利用人数は増えた。
- ・月 1 回の業務改善会議で感染症対策、虐待防止のための対策について情報交換を行い検討した。

## 7 共同募金運動への協力

### 目標

民間福祉活動を総合的かつ効果的に推進し、社会福祉への住民の理解を深める。共同募金運動に協力することによって、地域福祉の推進に貢献する。

### 事業実績

#### (1) 共同募金運動

- ・ 善通寺のまちをよくするプロジェクト募集 4月
- ・ 審査委員会の開催 2回 助成事業審査等（第1回は書面表決）
- ・ 運営委員会の開催 2回 共同募金推進計画等について（2回共書面表決）
- ・ 募金実績

区分		目標額（円）	実績額（円）	達成率（%）
地区	中央	867,600	831,000	95.8
	東部	1,102,500	1,087,600	98.7
	西部	532,700	599,800	112.6
	南部	649,800	621,900	95.7
	与北	375,600	442,300	117.8
	竜川	1,004,700	976,100	97.2
	筆岡	688,300	835,300	121.4
	吉原	565,300	615,100	108.8
事務局		894,500	773,406	86.5
合計		6,681,000	6,782,506	101.5

- ・ 助成実績 令和2年度募金（令和3年度事業）

事業名	実績額（円）	助成先
地域福祉推進事業	2,200,318	地域福祉活動計画に基づく市社協の実施事業
小地域福祉活動事業	1,790,200	8地区社協
地域福祉活動支援事業	575,000	福祉団体、地域団体（17団体）
合計	4,565,518	

- ・ 災害見舞金給付金：20,000円

#### (2) 歳末たすけあい運動

- ・ 募金運動については、婦人会及び自治会の協力で戸別募金、大口募金を実施。自衛隊営内居住者については、事務局から依頼した。
- ・ 歳末たすけあい運動実行委員会の開催 2回
- ・ 募金実績

区分	金額（円）
戸別募金、特別募金	2,116,832
営内募金	74,700
合計	2,191,532

・助成実績

種類	件数	助成金額（円）
児童福祉施設利用者	586	387,000
障害児（者）関係	76	76,000
準要保護児童等在宅関係	376	588,500
地区社協、婦人会、自治会、市社協	17	1,140,032
公募事業	1	4,500
合計	1,056	2,191,532

**(3) 善通寺市歳末たすけあい運動協賛事業善通寺チャリティ美術展**

・善通寺チャリティ美術展の実施

日時 令和3年12月4日（土）～12月8日（水）  
9：00～16：00

場所 善通寺市総合会館 3階特設会場

内容 県内外の有名寺院の名僧、著名な書家、美術家から寄贈された書  
絵画、工芸品等を展示即売

出展作品数 156点 作品協力者 66人

チャリティ即売売上金 1,747,000円

※市社協地域福祉事業へ繰入金支出 800,000円

**評価と課題**

- ・歳末募金では、公募による助成を1件実施した。
- ・共同募金及び歳末募金の実績額については、毎年度減少しており、新たな仕組みづくり（募金百貨店、ガチャガチャ募金、自動販売機募金等）を検討していく必要がある。

## 善通寺市社会福祉協議会職員数の推移及び職員構成

## 職員数の推移

(人)

年度 4月1日現在	常務理事	事務局 長	施設 長、 課長	法人運営係			事業係			老人ホーム (市指定管理)		合 計
				法人運営	無料職業紹介事業(人材バンク)	総合会館(市指定管理)	地域福祉担当	在宅福祉担当(介護保険)	老人ホーム	サロン五岳		
平成20	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼1)	3	41(兼2)	14(兼1)	2(兼2)	66	
21	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	36	15(兼2)	1(兼2)	62	
22	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4 (老人クラブ受託)	40	15(兼2)	1(兼2)	66	
23	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	36	廃止		46	
組織変更	1	1	次長	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	地域福祉係		在宅福祉係		48	
24			1				4	38				
25	1	1	1	2(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	41(兼10)			51	
26	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	4	38(兼10)			49	
27	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	5 (生活困窮受託)	39(兼12)			51	
28	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	地域福祉 3 相談支援 2 生きがいひろば 6(兼務5)	33(兼10)			51	
29	1	1	1	3(兼3)	(兼1)	1(兼3)	3	2	2(兼1)	33(兼10)	47	
30	1	1	1	老人クラブ 4(兼3)	(兼1)	1(兼3)	2	2	1(兼1)	33(兼10)	46	
31	1	1	1	4(兼3)	(廃止)	1(兼3)	3	2	1(兼1)	31(兼5)	45	
令和2		1	廃止	3(兼2)	老人クラブ 1	1(兼3)	2	2	(兼2)	25(兼2)	35	
令和3	1	1		2(兼2)	老人クラブ 1	1(兼3)	3(兼2)	2	(兼2)	22(兼2)	33	
令和4	1	1		4(兼1)	老人クラブ (兼1)	廃止	2(兼3)	2	1(兼2)	22(兼5)	33	

## 職員構成

(人)

区 分	(嘱託) 経営職	総合職	一般職	専門職	嘱託 (再雇用含む)	パート職	契約職	合 計
常務理事	1							1
事務局長		1						1
法人運営係		2(+1)	2(+1)		(-1)	(-1)		4
地域福祉係		4		(-1)		1(+1)		5
在宅福祉係		1	1	5(-1)	2(+1)		13	22
令和4.4.1 合計 構成比	1 3%	8(+1) 24.2%	3(+1) 9.1%	5(-2) 15.2%	2 6.1%	1 3%	13 39.4%	33 100%
令和3.4.1 合計	1	7	2	7	2	1	13	33

※ ( ) は前年度対比

総合職 +1名 専門職から総合職へ1名昇格

一般職 +1名 育児休業職員復帰による1名増加

専門職 -2名 総合職へ昇格1名及び定年退職1名による減少

嘱託再雇用 ±0名 退職による1名減少、再雇用による1名増加

パート職 ±0名 老人クラブ事務局事務パート退職による1名減少、生きがいひろばパート1名増加

## 令和3年度会員会費の状況

(令和4年3月31日現在)

区分 地区	一般会費	賛助会費	特別会費	合計	世帯数(自治会 加入世帯数)
	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	
中央	936	40	62	1,038	1,206
	468,000	44,000	530,000	1,042,000	
東部	1,311	80	42	1,433	1,488
	655,500	85,000	385,000	1,125,500	
西部	716	98	31	845	721
	358,000	98,000	295,000	751,000	
南部	685	22	22	729	877
	342,500	28,000	210,000	580,500	
与北	502	38	9	549	507
	251,000	43,000	80,000	374,000	
竜川	1,357	50	40	1,447	1,357
	678,500	50,000	375,000	1,103,500	
筆岡	874	115	44	1,033	926
	437,000	126,000	420,000	983,000	
吉原	674	95	54	823	764
	337,000	99,000	520,000	956,000	
小計	7,202	538	304	7,897	7,846
	3,527,500	573,000	2,865,000	6,915,500	
その他			3	3	
			30,000	30,000	
合計	7,055	538	307	7,900	
	3,527,500	573,000	2,845,000	6,945,500	

前年度	7,202	545	313	8,060	
	3,600,700	575,000	2,910,000	7,085,700	
対比	98.0%	98.7%	98.1%	98.0%	
	98.0%	99.7%	97.8%	98.0%	

## 令和3年度 地区社協事業報告〈中央地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

目標	心身ともに飛躍する空海のまち	設立年月日	平成2年1月16日
----	----------------	-------	-----------

## ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	6月 総会資料を役員、運営委員、福祉委員に郵送 (書面表決により実施)	6名
監査	5/25	5名
役員会	5/25 総会資料作り	20名
	6/6 総会資料を郵送準備	6名
	7/10 総会資料の結果報告	20名
サロン代表者会	3/10 サロン事業の実績及び新年度の計画について	20名

## ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
在宅要援護者安否確認事業	対象者 訪問担当者 訪問回数 延べ対象者数	80歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯、障がい者等 民生委員 12人 5,250回 (R3.1.1～R3.12.31) 3,493人 (R3.1.1～R3.12.31)
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者 民生委員 10回 (R3.1.1～R3.12.31) 669人 (R3.1.1～R3.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	14グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 17回、延べ利用者数 101人	

## ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
赤門八日市	毎月8日 赤門筋	薬師堂一般参拝者にお接待	一般参拝者 ボランティア役員 100名
中央自治会みかん狩り	11/28 西部みかん山	ハイキング及びみかん狩り	一般自治会員 200名
中央地区防災訓練	11/28 中央小学校	防災訓練	一般自治会員 消防団 200名
食育事業	12/9 中央小学校	5年生にげんこつ飴を配布	40名
中央小学校児童との 交流事業	12/20 中央小学校	児童とのカラーリング試合	5年生 会員 60名

## 令和3年度 地区社協事業報告〈東部地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	支え合い、助け合うまち、東部地区	<b>設立年月日</b>	平成2年2月26日
-----------	------------------	--------------	-----------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/20 事業報告、事業計画等 (書面表決により実施)	84名
監査	5/11	4名
役員会	5/11 総会について	23名
	7/16 特別会員の推進及び集金について他、研修	25名
	10/29 座談会(地区支え合い会議)	18名
役員研修会	コロナ感染予防対策により、開催中止	—
サロン代表者会	3/11 助成金の支給、サロン活動についての座談会	15名
小地域福祉活動サミット	10/22,23 講演「コロナ禍における小地域活動」	東部より3名
地域ネットワーク会議	1/18 講演「命を守るネットワーク」	東部より3名
見守り活動推進員連絡会	コロナ感染予防対策により、開催中止	—

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員12人、見守り活動推進員56人
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者	75歳以上の独居高齢者、80歳以上の高齢者のうち希望者
	配食の担当	民生委員
	実施回数 延べ対象者数	10回(R3.1.1～R3.12.31) 1,350人(R3.1.1～R3.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	16グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数9回、延べ利用者数 42人	

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあい会食会	中止	—	—
ふれあい会	12/7 東部幼稚園ホール	サンタさん訪問、プレゼントを贈る(代替行事)	全幼稚園児
友愛訪問①	8/27	梨のお届け	75歳以上1人暮らし、寝たきりの方 210名
友愛訪問②	2/25、2/26	赤飯、りんごのお届け	〃 212名
敬老行事	9/18	行事検討、記念品お届け	992名
公民館まつりへの協力	中止	—	—
ウォーキング行事への協力	5回実施 市内各所	ウォーキング	自由参加
東部っ子パトロール隊への協力	指定日の付き添い見守り	書面決議、助成金及び有志による付き添い見守り	民生委員、サロン代表者等
高齢者問題を考える会(役員会)	活動休止中	—	—

### ◆ 広報誌の発行

広報の名称	東部地区だより	編集委員	地区社協3役、公民館運営委員等11名
1回あたり印刷部数	2,000部	編集委員会 開催日	9月初旬、3月初旬(持ち回り)
1回あたりの諸経費	34,980円(印刷代) (他に写真、テスト印刷等)	発行回数	年2回
配布方法	自治会全戸配布、公民館、 小学校・幼稚園	発行日	第11号 令和3年9月30日発行 第12号 令和4年3月31日

## 令和3年度 地区社協事業報告〈西部地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	交流を深め、支え合えるまち西部	<b>設立年月日</b>	平成2年2月21日
-----------	-----------------	--------------	-----------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者数
総会	5/6 各委員へ総会資料を配布 (書面表決により実施 議案の承認は 5/25)	5名
監査	4/13	4名
役員会	4/3 第4次西部地区地域福祉活動計画の決定について 令和3年度総会について	25名
執行役員会	4/24 今年度事業の進め方について 当面の事業と課題について	6名
	7/14 当面の事業と課題について	6名
	11/5 福祉座談会の進め方について	6名
	3/29 令和3年度の事業及び決算について 総会の進め方について	6名
拡大執行役員会	12/25 福祉座談会での課題を確認 見守り活動推進全体会議の進め方について	15名
第3回西部地区地域福祉活動計画 策定委員会	4/3 第4次計画の最終確認と決定	25名
給食反省会	3/23 給食サービスで給食製作を中止することについて	4名
サロン代表者懇談会	3/25 サロンの実施状況と課題について 今後の進め方について	6名
福祉座談会	11/25 西部地区の福祉課題について	25名

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員7人、見守り活動推進員21人
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者	75歳以上の高齢者、要援護者
	調理の担当	自治会、健康推進員、小学校PTA、民生委員
	配食の担当	民生委員
	実施回数	10回 (R3.1.1～R3.12.31)
	延べ対象者数	392人 (R3.1.1～R3.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	6グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数	6回、延べ利用者数 29人

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	主な内容	実施日
防犯パトロール事業	パトロール車による西部地区を巡回 その他啓発活動	R3.4月～R4.3月
西部地区市民ハイキング	ハイキング、ゲームなどで交流	新型コロナウイルス 感染症のため中止
高齢者(独居)へ園児の花配り	幼稚園児が民生委員と菓子と花を持って訪問	
西部地区長寿会温泉いきいき旅行	長寿会の懇親、生きがいづくり事業	
五岳荘訪問	ひまわり会による歌と踊りの披露、プレゼント持参	
善通寺まつり	祭りの準備、踊り子の激励	
独居高齢者への盛夏日応援事業	高齢者宅へ民生委員が訪問	
第62回市民体育祭西部地区大会	体育大会の支援と参加	
西部地区長寿を祝う会	西部地区の敬老行事 歌、踊り、漫談	
西部地区公民館まつり	公民館まつりとして展示、バザー、芸能発表会	
園児と高齢者の交流会	幼稚園児と高齢者との昔遊び 園児の歌と踊り 交流	
三世代交流タイムレス大会	各自自治体対抗のタイム宣言のリレー大会支援	
自主防災訓練	防災訓練・土のう、担架づくり・機器の操作	

## 令和3年度 地区社協事業報告〈南部地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	誰もがいきいきと暮らせ多彩でうるおいに満ち 共に創り共に助け合う	<b>設立年月日</b>	平成2年3月12日
-----------	-------------------------------------	--------------	-----------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	(書面表決により実施)	—
監査	4/24	5名
役員会	中止	—
役員研修会	中止	—
外出支援事業打合せ	6/3 外出支援事業日程打合せ	8名
	3/8 外出支援事業日程打合せ	8名
ふれあいサロン打合せ	6/3 今後のふれあいサロンの運営について	8名
	3/8 今後のふれあいサロンの運営について	7名

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
在宅要援護者安否確認事業	対象者 訪問担当者 訪問回数 延べ対象者数	75歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯等 民生委員 10人 1,263回 (R3.1.1～R3.12.31) 956人 (R3.1.1～R3.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	6グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 8回、延べ利用者数 38人	

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
介護事情所へ クリスマス慰問	12/16 大杉病院	介護支援が必要な人へクリスマス慰問を行い、お菓子を持参した。	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
幼稚園児へひなあられ 持参訪問	2/24 南部公民館	ひな祭りに南部幼稚園にひなあられを持参し訪問した	会長 1名 副会長 1名 運営委員 1名
三世代ウォーキング	3/5 南部公民館	南部地区の三世代を対象としてウォーキングを行いスタンプラリーで楽しんだ	75名

## 令和3年度 地区社協事業報告〈与北地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	『向こう三軒両隣』からつながる地域づくり	<b>設立年月日</b>	平成2年2月20日
-----------	----------------------	--------------	-----------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/23 事業報告・会計報告（書面表決により実施）	59名
監査	5/15 会計監査	4名
役員会	5/21 役員選出と総会議案について	11名
福祉協力員と民生委員合同打合せ会	4/8 令和3年度における福祉活動についての役割と分担の確認	28名
サロン代表者会義	3/18 サロン活動の現状・意見交換、活動助成金	12名

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 6人、活動推進員 15人
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者	独居高齢者等
	配食の担当	福祉協力員、民生委員
	調理の担当	福祉協力員、ボランティア部員
	実施回数	11回（R3.1.1～R3.12.31）
	延べ対象者数	475人（R3.1.1～R3.12.31）
ふれあい・いきいきサロン	8グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 2回、延べ利用者数 10人	

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
さつま芋栽培体験事業	5/13 借上農地	さつま芋苗植付作業	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児 25人
さつま芋栽培体験事業	9/30 借上農地	さつま芋収穫体験	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児 30人

## 令和3年度 地区社協事業報告〈竜川地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	お互いのつながりを再構築し 誰もが安心して暮らせる 心豊かなまちづくり	<b>設立年月日</b>	平成元年12月15日
-----------	---	--------------	------------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/21 事業報告、事業計画等（書面表決により実施）	106名
監査	4/9	5名
役員会（理事会）	4/30 総会提出議案審議	16名
執行役員会	7/10 当面の事業について	5名
	11/7 当面の事業について（役員研修）	5名
	1/8 当面の事業について（ふれあい会）	10名
福祉委員会	2/10 福祉計画について	10名
福祉委員会 （見守り活動委員会）	6/17 研修会・活動報告・情報交換	24名
	11/18 研修会・活動報告・情報交換	24名
研修会	11/14 研修会・情報交換（岡山県真備地区）	24名
サロン代表者会議	10/29 研修・外出支援・コロナ対策	17名
	3/11 研修会・外出支援配分について 4年度サロン届出書	12名

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 8人、見守り活動推進員 17人
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者	75歳以上の独居高齢者
	配食の担当	民生委員 8名
	実施回数	19回（R3.1.1～R3.12.31）
	延べ対象者数	761人（R3.1.1～R3.12.31）
ふれあい・いきいきサロン	13グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 14回、延べ利用者数 73人	

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	主な内容	実施日
高齢者問題を考える会	高齢者問題について	新型コロナウイルス感染症のため中止
敬老ふれあい会食会	ふれあい会食会	
わくわくふれあい 夏祭り	地域・施設ふれあい行事	
長寿を祝う会 公民館祭り	長寿を祝う会、公民館活動発表	

### ◆ 広報誌の発行

広報の名称	健やか福祉のたより たつかわ	編集委員	会長、副会長等 5名
1回あたり印刷部数	1,500部	編集委員会 開催日	5/25 6/15 2/1 3/1
1回あたりの諸経費	49,500円	発行回数	年2回
配布方法	自治会を通じ全戸配布	発行日	第24号 令和3年6月15日発行 第25号 令和4年3月1日発行

## 令和3年度 地区社協事業報告〈筆岡地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	みんなで支え合う コミュニティのまち 筆岡	<b>設立年月日</b>	平成2年2月26日
-----------	-----------------------	--------------	-----------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/18 資料郵送にて理事による承認、役員等に周知 (書面表決により実施)	4名
監査	4/15	4名
役員会	5/12 令和3年度総会議案書、総会開催について審議	7名
	6/22 執行役員会 令和3年度上期事業について	8名
	7/20 執行役員会 2事業検討 CSWについて	8名
	9/28 執行役員会 検討事項 他	8名
サロン代表者会	6/23 7月～9月の外出支援予定表の作成	17名
	11/17 12月～3月外出支援予定	16名
	3/5 4月5月の外出支援事業予定と実績報告	16名
見守り活動ネットワーク	6/12 見守り活動ネットワーク事業推進員証交付	33名
	10/29 研修会及び活動報告	32名

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容
見守り活動ネットワーク事業	担当者 民生委員 6人、見守り活動推進員 23人
ふれあい・いきいきサロン	13グループ
高齢者等外出支援事業	運行回数 15回、延べ利用者数 82人

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
高齢者慰問	12/10～12	安否確認のため高齢者慰問 (慰問品 梅干し)	民生委員 6名

### ◆ 広報誌の発行

広報の名称	福祉筆岡	編集委員	執行役員会等 9名
1回あたり印刷部数	1,000部	編集委員会 開催日	8/31 9/14 9/28 10/19 3/5
1回あたりの諸経費	50,000円	発行回数	年2回
配布方法	自治会に配布依頼	発行日	第39号 令和3年10月1日発行 第40号 令和4年5月1日発行予定

## 令和3年度 地区社協事業報告〈吉原地区〉

(令和3.4.1～令和4.3.31)

<b>目標</b>	みんなで支え合い笑顔あふれる 吉原地区	<b>設立年月日</b>	平成元年6月28日
-----------	---------------------	--------------	-----------

### ◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/20 コロナのため書面表決により実施	104名
監査	4/6	5名
役員会	4/10 総会資料検討、予算案等	7名
理事会	4/23 総会について	12名
	7/28 買い物バス運行、サロン助成金、地区活動計画等	15名
	10/27 歳末ふれあい訪問、地区活動計画等	14名
	2/17 地区活動計画等	14名
	3/16 地区活動計画等	14名
総会資料作成、打合	5/7 資料印刷・製本(総会資料 112部)	8名
	5/13 資料配布・回収(記念品、市社協会費依頼等)	17名
	5/23 総会結果報告	10名
サロン代表者会	8/5 活動報告、サロンバス、助成金支給等	23名
	3/17 活動実績報告、サロンバス運行表作成他	24名
合同研修会	3/24 記念品配布	13名
吉原地区見守り活動会議	4/6 研修会	20名
	7/1 研修会	19名
	10/1 研修会	19名
	11/29 香川総合リハビリテーションセンター見学	20名
	1/19 研修会	17名
第4次吉原地区地域福祉活動計画策定委員会	11/4 打ち合わせ(策定委員、委員会開催等について)	6名
	11/13 第1回策定委員会(策定委員意見交換等)	15名
	12/11 第2回策定委員会(第3次計画評価、意見交換)	15名
外出支援事業打合せ	9/19 買い物支援バスコロナ対応打ち合わせ	有志
	12/16 買い物支援バス添乗員会	30名
	1/9 買い物支援バス運行表作成	9名
	1/13 買い物支援バス添乗委員令和4年度依頼	9名
	1/27 買い物支援バス再開中止決定(まん防のため)	9名
	3/5 買い物支援バス添乗員組み合わせについて	3名

### ◆ 事業実績

事業名	事業内容	
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員 7人、見守り活動推進員 10人
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者	75歳以上の独居高齢者
	配食の担当	民生委員
	実施回数	17回(R3.1.1～R3.12.31)
	延べ対象者数	607人(R3.1.1～R3.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	22グループ	
高齢者等外出支援事業	買い物支援バス：運行回数0回、延べ利用者数21人	
	サロン外出支援バス：運行回数5回、延べ利用人数31人	

### ◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
善通寺まつり	中止	—	—
公民館まつり	中止	—	—
歳末ふれあい訪問準備会	10/20・11/13 12/5・12/9・12/17 12/18 公民館	名簿作成依頼、名簿チェック 配布案内状作成配布 民生委員 配布仕分け、記念品、あいさつ文、手紙準備	各 10名
歳末ふれあい訪問	12/19 公民館	記念品・あいさつ文・小学生手紙 配布、安否確認・広報写真	役員、理事、配布者 21名

ふれあい・いきいきサロン交流	11/28	食改交流(西碑殿集会場)	30名
	11/29	足裏健康体操教室(三井之江集会場)	25名
	2/22	男性料理教室(サロン代表者宅訪問)	39名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	吉原地区だより	編集委員	会長、副会長等 5名
1回あたり印刷部数	1,100部	編集委員会開催日	11/9、11/28、12/10 2/3、2/14
1回あたりの諸経費	50,000円(年間)	発行回数	年2回
配布方法	運営委員(自治会長)が配布	発行日	第16号 令和3年12月10日発行 第17号 令和4年3月1日発行

## 善通寺市地域支え合いセンターここ家利用状況等一覧表

令和3年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	一回平均	
1階開館日数(日)		21	7	22	20	6	-	21	20	20	13	-	8	158	15.8	-	
生きがいひろば	生きがいひろば	実施回数(回)	12	4	8	12	4	-	13	12	11	8	-	6	90	9.0	-
		利用者数(人)	54	17	31	40	12	-	39	39	35	23	-	8	298	29.8	3.3
		その他の利用者数(人)	172	34	77	68	51	-	157	184	133	94	-	37	1,007	100.7	11.2
		ボランティア人数(人)	9	2	6	9	3	-	9	8	8	8	-	4	66	6.6	0.7
	シニアショップ	開店日数(日)	17	-	10	16	5	-	17	15	15	9	-	3	107	11.9	-
		利用者数(人)	514	-	256	406	136	-	534	484	490	246	-	107	3,173	352.6	29.7
		シェフ及びアシスタント人数(人)	46	-	23	43	13	-	45	39	42	27	-	6	284	31.6	2.7
	あつたか	実施日数(日)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		協力者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	居場所	実施日数(日)	1	-	1	1	-	-	1	1	1	-	-	1	7	1.0	-
		利用者数(人)	3	-	1	0	-	-	1	1	0	-	-	1	7	1.0	1.0
		スタッフ人数(人)	3	-	3	3	-	-	2	2	2	-	-	3	18	2.6	2.6
	の利用	会議回数(回)	2	3	1	2	1	-	2	3	3	1	-	2	20	2.0	-
		利用者数(人)	16	18	9	15	6	-	23	30	25	6	-	17	165	16.5	8.3
	ここめし	利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	12	12.0	12.0
		スタッフ人数(人)	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	8	8.0	8.0
	ここ寄席	利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		スタッフ人数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計(1)		人数(人)	817	71	406	584	221	-	830	787	735	404	-	183	5,038	503.8	31.9
介護予防・日常生活支援総合事業	脳トレ	実施回数(回)	9	3	9	8	2	-	8	7	8	6	-	2	62	6.2	-
		利用者数(人)	50	13	38	33	7	-	58	46	55	47	-	17	364	36.4	5.9
		サポーター人数<運転手>(人)	51	12	47	44	10	-	35	25	37	26	-	10	297	29.7	4.8
	サトビス	通所サービス実施日数(日)	21	18	22	20	21	20	21	20	19	19	18	22	241	20.1	-
		利用者数(人)	232	184	249	244	254	256	282	272	232	221	192	215	2,833	236.1	11.8
ボランティア人数(人)		21	17	18	15	15	9	20	16	16	16	7	21	191	15.9	0.8	
計(2)		人数(人)	354	226	352	336	286	265	395	359	340	310	199	263	3,685	307.1	15.3
合計(1)+(2)		人数(人)	1,171	297	758	920	507	265	1,225	1,146	1,075	714	199	446	8,723	726.9	55.2
令和2年度利用状況		人数(人)	273	224	551	989	781	900	1,051	965	1,068	922	931	1,236	9,891	824.3	53.2

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1階「生きがいひろば」の休止期間：令和3年5月17日～5月31日(なないろ休業：5月6日～6月11)、令和3年8月11日～9月30日、令和4年1月24日～3月21日